

屏風飾り旧家重動植物展

7月14日(火) | 7月15日(水) | 7月16日(木)

長江家住宅の歴史

長江家は代々呉服卸商を営んでこられました。文政5年(1822)に袋屋町(現・船鉦町)へ入町し、現在の北棟の場所で商売を始められました。元治元年(1864)、禁門の変による大火で家屋は全て焼失してしまいます。その後、長江家は慶応4年(1868)に北棟を再建し、明治8年(1875)に背面裏地に大蔵を移建しました。明治39年(1906)には、商売を拡大するにあたり、南側を買ひ足し、翌年新たに南棟を建てました。そして大正4年(1915)に、化粧部屋と浴室を新築しました。職住一体の京町家の佇まいを今に遺していることを評価され、平成17年(2005)に京都市指定有形文化財の指定を受けました。

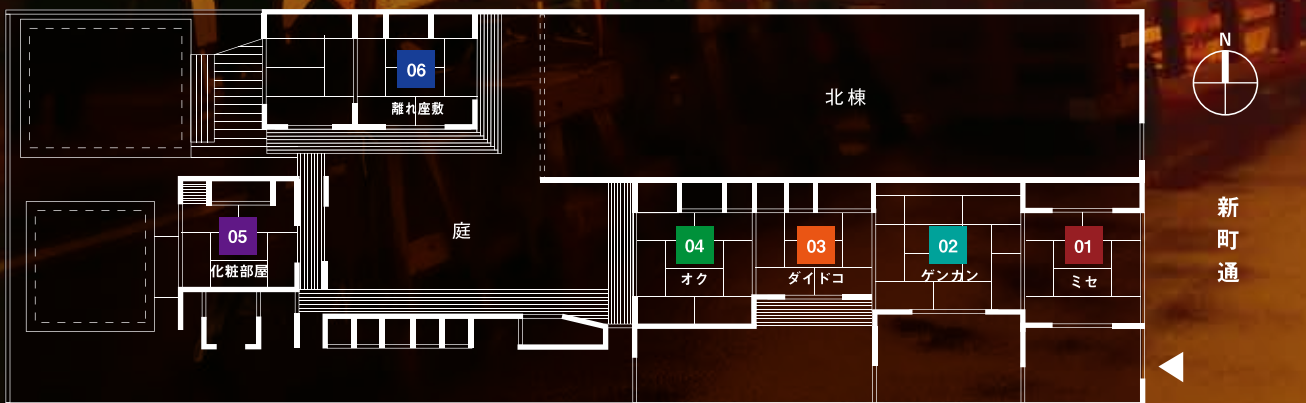
屏風飾り

祇園祭は、各商家が秘蔵の屏風を人々に披露する、年に一度の機会でもありました。この屏風飾りの風習がいつ頃始まったのかは明らかではありませんが、明治時代後期から大正時代初期にかけて特に盛んになり、祇園祭の宵山は「屏風祭」とも呼ばれました。美人画の第一人者として活躍した上村松園も、「私にとって屏風祭は他のどの祭りよりも楽しかったものである」と回顧しています。名だたる画家の作品を身近に見ることのできる山鉦町の環境は、松園の美的感性を育む重要な土壌の一つであったといえるでしょう。現在では、屏風を飾る家は少なくなりましたが、宵山の山鉦町を歩くと、今も屏風や鉦の模型、ヒオウキの生け花のしつらいを至る所で見ることができます。

令和8年度 主な展示品

番号	作品名	作者・由緒	種別	時代	展示場所
01	嵐山之図	長谷川玉峰	屏風	明治期	ミセ
02	四君子押絵貼	作者不明	屏風	不明	ゲンカン
03	長江家建築文書	長江はる 他	文書	明治期	ダイドコ
04	染織圖案でみる動植物	大坂屋・長江商店	文書	江戸時代後期～昭和初期	オク
04	祇園祭弦召(犬神人)	羽田月洲	掛軸	明治期	オク
05	動植物を描いた扇子と団扇	山田耕雲・富岡鉄斎 他	工芸品	明治期～昭和期	化粧部屋
06	祇園祭 山鉦を彩る動物達	立命館大学文学部 学生	パネル	江戸時代後期～昭和初期	離れ座敷
06	京都市動物園でのおもいで	長江伊三郎	文書	昭和初期	離れ座敷

1階平面図



屏風飾り旧家動物展 とに残る動植物展

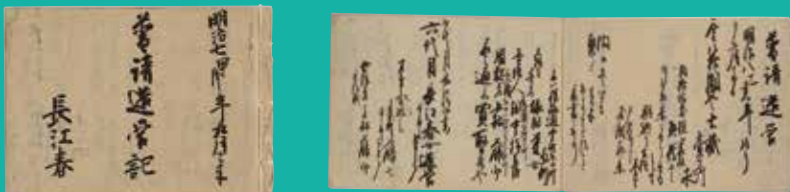
01 嵐山之図



02 四君子押絵貼



03 長江家建築文書



04 染織図案でみる動植物



04 祇園祭弦召（犬神人）



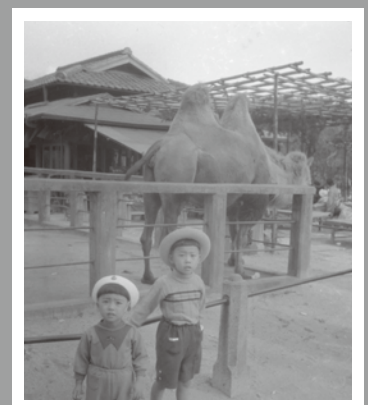
06 祇園祭 山鉾を彩る動物達



05 動植物を描いた扇子と団扇



06 京都市動物園でのおもいで



フージャースグループは2015年より長江家住宅を取得し、立命館大学と維持管理に関する連携協定を結んでいます。また、京都市や公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターのサポートを受け、産学官連携の元で、その継承の取り組みを進めています。